

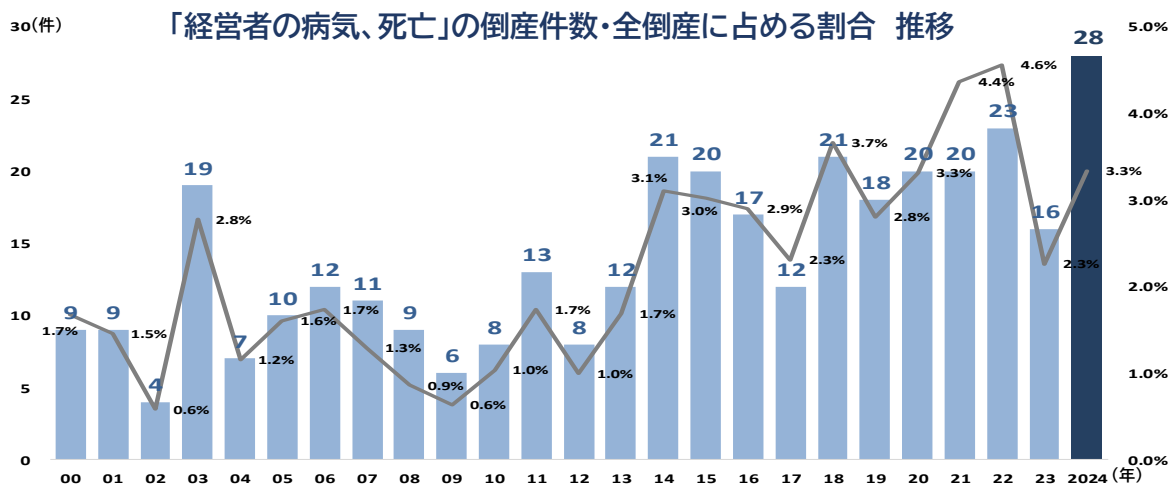
九州・沖縄地区の「経営者の病気、死亡」倒産動向調査(2024 年)

「経営者の病気、死亡」による倒産が過去最多を更新

2024 年九州・沖縄地区の「経営者の病気、死亡」による倒産が 28 件発生。集計基準が変更となった 2000 年以降で最も多かった 2022 年 (23 件) を超え、過去最多を更新した。また、全倒産に占める割合もかつては 1% 程度にとどまっていたが、2014 年に 3.1% となって以降は、2% を下回っていない。

理由の一つは社長の高齢化だ。『九州「社長年齢」分析調査(2023 年)』¹によると、2023 年の社長の平均年齢は 60.2 歳と過去最高を更新した。また、50 歳以上の割合は 2016 年の 77.6% から 79.0% にまで上昇し、企業の経営者の高齢化が加速度的に進んでいる。その大きな要因の一つが、社長が交代した割合を示す『社長交代率』が 3.91% の低水準で推移していることである。

九州における社長の『後継者不在率』²は、事業承継に関する官民の働きかけが効果をあげたこともあり、近年は改善傾向にあるものの、年齢的に後継者が決まっていることが望まれる 70 代で 29.0%、80 代以上で 23.1% が後継者不在となっている。事業承継ガイドライン(中小企業庁)には、後継者への移行期間を踏まえると「概ね 60 歳頃には事業承継に向けた準備に着手することが望ましい」とある。準備の先延ばしにより「経営者の病気、死亡」による倒産リスクは高まり、倒産件数は今後も増加傾向で推移する見込み。



株式会社帝国データバンク福岡支店情報部 担当: 丸山 翔大

TEL: 092-738-7779 FAX: 092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

¹ 帝国データバンク『九州「社長年齢」分析調査(2023 年)』2024 年 5 月 13 日発表

² 帝国データバンク『九州・沖縄地区「後継者不在率」動向調査』2024 年 11 月 29 日発表